

環境技術研究所ニュース：

環境技術研究所研究員が四日市メガソーラー(桜)の稼働状況を調査

2019年6月18日(火)の午後に武本研究員が桜地区の(株)レノバの開発した四日市メガソーラーを見学しました。この見学・調査は四日市市の環境保全課の職員と環境審議会の専門部会の部会員の皆様との合同で認可後初めて現地へ出向きました。

最初に国道306号の旧道(非常に狭くすれ違いが大変で地元の車しか入らない)の途中から、フェンスの中の事業地の西側に入り、レノバの職員2名から説明を受けました。

ナゴヤドーム14個分の広大な台地を切り開いて作られた場所は、周囲の残置森林(当初計画で24から27haへやや増加し、法面と造成林は0.8から10haへ大幅増に、またパネル面積は当初38から28haへ減少)のうち、東側のミルクロードに隣接する場所は、小河川に棲息するオオコオイムシ、ヒメタイコウチ、ムカシヤンマなどの準絶滅危惧種に配慮して、残されました。

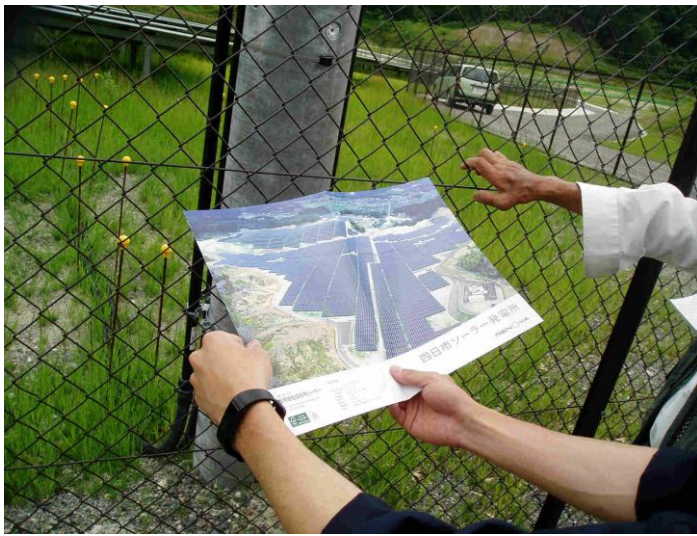
パネルは1枚300Wの高効率の多結晶シリコンへと改良され、当初の12万枚から7万枚へと減らしてもらいました。この業者は2013年に契約したので1kw36円でした。2019年は14円に売電価格が3分の1になり、2020年はもう買い取り制終了です。つまりこれからの事業者は自力で売電先をみつけて売らねばならず、販売価格も変動するので、もうこのような里地里山を破壊するようなメガソーラーは終わりそうです。

動植物については、サシバが周囲の残置森林中に棲息しているとのこと、昔はこのあたりに多かったようです。イノシシ等のフェンスの外への出没が見られるが、三重県の猟友会と相談しているとのこと。パネルの下草はメンテ業者へ委託して刈り取ってもらうようでした(当然、除草剤は使わない)。パネルの外の草地はウシノケグサ?また、外から在来種や外来種の草の侵入が今後考えられるようです。残置森林は元のままで、結構、竹が多いようです。切土盛土の法面の緑化は、在来種の種子を吹き付けているとのこと。

敷地の北西角のビオトープは、3号調整池のすぐ外側で、和歌山大の専門家の指導で階段状の湿地にしてあり、ヒメタイコウチやホトケドジョウ等が棲めるように設計されているとのこと。事実、その下の水田には、タイコウチやオタマジャクシ、アマガエルも見られました。(調整池は1号はミルクロード近くに計画されていましたが、その周囲を残置するので、とりやめに。2号は真ん中の集落の東側にあり、3号は北西角にあります。)



西側より南東方向の変電装置と中電の送電線を望む



パンプの写真と現在位置を見比べているところ



事業地フェンスの外側にイノシシの足跡



3号調整池とその上のパネル、パネルの右下がビオトープ



ビオトープの全景、左は調整池のフェンス、手前は水田



ビオトープ入り口の左で見つかったシデコブシ
(途中で幹が切られているもので昔の農家が切ったか?)



ビオトープの下の水田にいたタイコウチとオタマ
(上の楕円内にタイコウチとオタマ、下の円内にタイコウチ)

武本部長会長の全般的意見：

1) 四日市市の作成による環境計画によると、平成7年から平成22年まででは、市の森林面積は19%も減少している。今回のこの大規模ソーラー設置によるとさらに1%分が失われる。

よって、なるべく市の貴重な森林資源を失わず、生態系を保持するために、計画地を全面的に田畑のように開墾するのではなく、中心部を通るような東西南北に走る残置森林の帯を残して、生物の往来が可能のようにすべきである。経済効率は若干落ちるであろうが、できれば今後のこのような大規模ソーラー施設の環境保持への模範となるような工事としていただきたい。

2) パネル下の地面は砂利ではなく、自然のままの草地にするとのことで、大規模な芝面の野球場が斜面に10面ぐらいできそうな状態が想定される。土中に深く根を張る広葉樹の森林の雨水保水力は2日間ぐらいあるが、山地の裸地・草地ではわずか数時間である。であるから、計画地全面を開墾してパネルを敷き詰めるのではなく、緑のダムとして広葉樹の林の帯を斜面のところどころに残せないか？

3) 台風の通過に伴う大雨の場合、この斜面に降った雨は大部分は表層水として、流れ落ちる。調整池は3カ所設置されるようであるが、能力等で最近の大雨への対応を県当局と十分協議の上なされたい。なお、造成工事中の仮設の沈砂池の整備についても容量を十分にとってもらいたい。下流の矢合川の護岸が破壊される大雨が最近しばしば見られるので。

4) (植物大家の桐生先生の言われるように、) 放置竹林の問題は、日本全国で大問題になっている。そこで、地形の開墾工事の際に、周囲の竹林も多少地形的に凹凸になるかもしれないが、除去しておくといいのでは。パネルのそばに竹林があると、当然の如くパネル設置部分に侵入してくる。コナラ群落等の広葉樹は残してほしいが。

5) 市の指定天然記念物のシデコブシ小規模群落がミルクロード沿いに自生していて貴重なものである。この南方上流部にあるミルクロードからの取り付け道路部分として土地所有者が確保した東方への出っ張り部分については、改変しないとのことであり、直接影響はないと思われる。しかし、この群落は上流南方や西方部からの浸出水による湿地があるので保持されている。この水が枯れてしまう事態とならないように、できれば地下水の流動予測が可能か？また、中央の小集落の南側にシデコブシが数本確認されたとのこと。これらについては残地森林内に移植を。

306号
 評価書の東側の残置森林を残す改訂へ
 二がビホー



N
 4

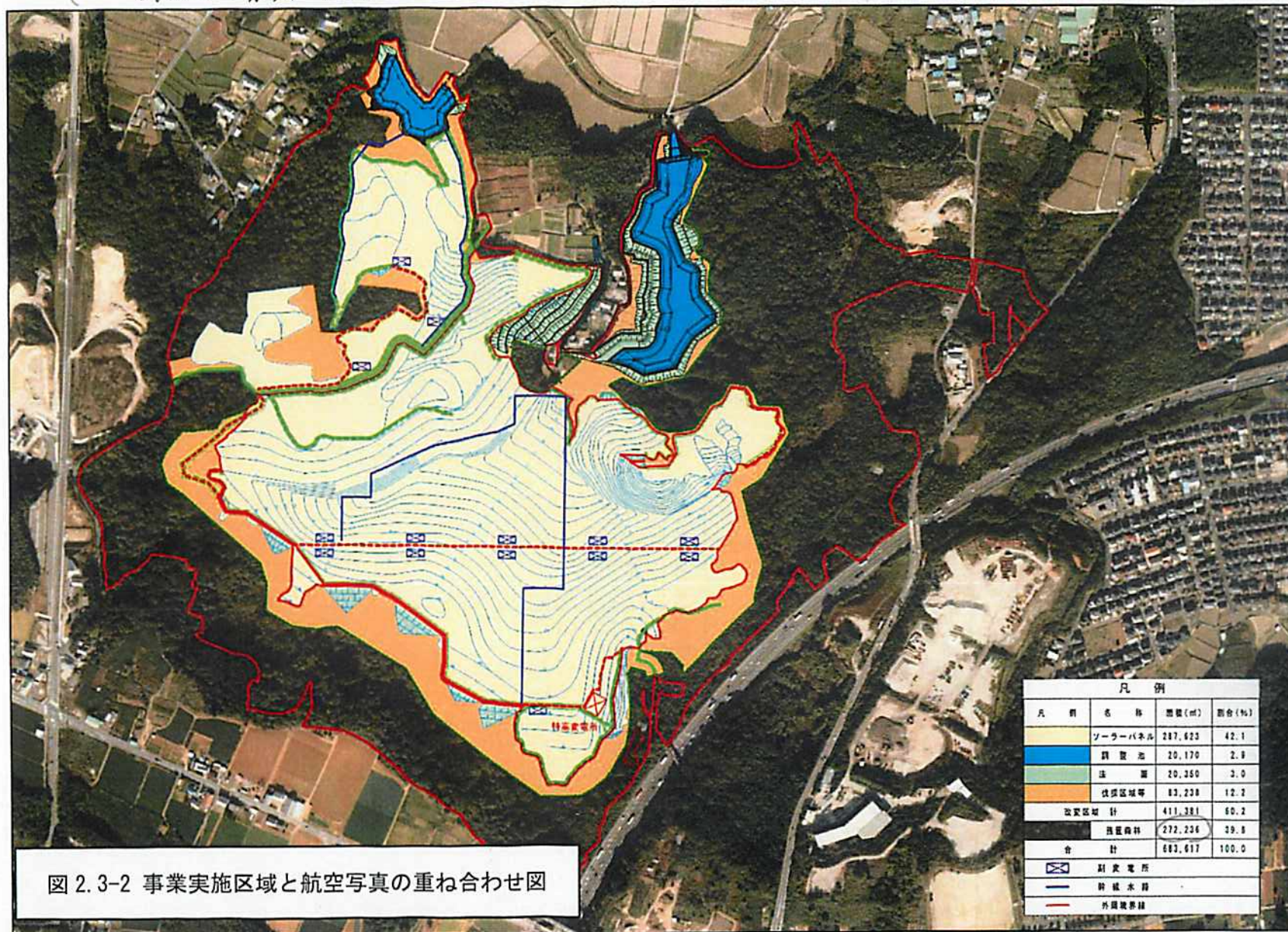


図 2.3-2 事業実施区域と航空写真の重ね合わせ図

取込

残置森林の増加

四日市リーナー事業の環境影響評価書(2016.11月)より